

平成18年度一般会計予算賛否討論

予算特別委員会

(2・3ページ)

平成18年度一般会計歳入歳出予算の審査状況から、主なものをお知らせします。

府中市議会公明党

本予算は、「未来へつなげるうるおい あんぜん めくもり予算」として、限られた財源の中で最大の効果を引き出す積極的な予算編成であることを評価する。

歳入では、経営環境が厳しい中で、競走事業から8億円を繰り入れる等、改善努力がみられ、収入の確保とともに市債の計画的な借り入れ等を行うことで財源の安定化が図られた。

賛成討論

府中市議会市政会

本予算は、文化と伝統を守り、継承することを基本理念に置き、若年層から高齢者層に至るまで、多方面にわたり多くの配慮がなされた予算であると評価する。歳入では、景気の緩やかな回復傾向や人口増により個人・法人市民税ともに増額となっている。また、市債については、4億円の減額が図られており、健全財政への積極的な姿勢がみられる。

反対討論

日本共産党府中市議会議員団

平成18年度は、小泉内閣による定率減税の半減化、老年者控除の廃止、高齢者の医療費値上げなど、大幅な負担増が予定されている。

こうした中、市の18年度予算は、歳入において、市税収入と所得譲与税の増という特徴があるが、市税の増収は、景気回復による法人市民税の増に加え、個人市民税の定率減税半減による影響分約7億7千万円の市民

歳出では、第5次総合計画後期基本計画の策定など多分野での計画策定や防犯パトロール、安全・安心メールの配信、要保護児童対策地域協議会の設置など、将来に向けて、安心と希望をつなぐ様々な施策が、展開されている。

本予算は、今後も健全財政を維持するための取組を継続し、財政の安定化、市民本位の市政運営が図られるよう要望し、賛成意見とする。

歳出では、介護予防センター

の設置や環境学習等を行う水辺の楽校の開設、喫煙禁止路線パトロール活動の強化、権利擁護センター事業費の新規計上など、心ふれあう緑ゆたかな住みよいまちの実現を目指した事業に、必要な予算が適切に計上されている。本予算は、常日ごろから事務事業の見直しを行い、行政コストを意識した予算であり、賛成意見とする。

の痛みが含まれている。それに対し、国民健康保険税、介護保険料の負担増の緩和や障害者自立支援法による負担軽減などの市独自の政策もなく、市税増収分を市民に還元する予算とはなっていない。

市民の所得収入が伸び悩む中、次々とふりかかる負担増から市民生活を守るといって、自治体本来の役割を發揮する姿勢への転換を求め、本年度予算に反対する。

歳入

市税収納の確保 更なる取組みは

委員 本市では、市税収入の確保向上を図るため、第二・第四土曜日や、月1回日曜日に納税窓口を開設し、収納率も順調に推移しているという。そこで、平成18年度の更なる取組について聞きたい。

納税課長 17年度から実施したシルバー人材センターへの電話催告業務委託や、10人の収納員による現年度課税分を重視した徴収の取組など一定の成果を上げています。従って、18年度も、引き続きこうした取組を実施するとともに、中でも、平日に行っていた電話催告を第二・第四土曜日にも行うなど、実施方法を工夫し、より効果が高まるよう努力したい。

美術館の観覧料収入 減額の理由は

委員 美術館の企画展についての予算が、前年度より約1000万円少なく計上されているが、その理由を聞きたい。

また、美術館の一般観覧者について、市民と市外利用者の割合を聞きたい。

美術館副館長 減額の理由は、観覧者数を過去の実績に基づき見直したためであり、観覧者数の減少によるものではない。

また、観覧者の割合については、市民が約3割、市民以外の都民が約5割、それ以外は、都外の方となっている。

近隣市の方の利用も多く、多摩地域以外の方々にも広く利用されている。

歳出

育児支援家庭訪問事業 その内容は

委員 平成18年度、新たに児童虐待ネットワーク事業が開始される。その中に、育児支援家庭訪問事業があるが、その内容を聞きたい。

子育て支援課長 児童虐待への対応については、これまで、発見、相談という部分に力を入れてきたが、状況の改善には抑止という部分が重要と考え、同事業を開始する。同事業は、自分で救済の手を挙げられない人を関係機関が発見し、そこへ行政が人を派遣するもので、臨床心理士や看護師、保健師等の専門職を交えて、支援が必要な家庭を継続的に支援していくものである。

移動天文観測車 今後の活動は

委員 移動天文観測車ペガサスが、排気ガス規制で運行できなくなり、新しい観測車の購入費が計上されている。そこで、これまでの運行状況と今後の展開及び望遠鏡の再活用について聞きたい。

文化財担当主幹 ペガサスは、平成2年から運行を開始し、郷土の森博物館内の太陽観望会や館外での移動星空観測会などを実施してきた。

新しい観測車は、従前のもので、望遠鏡は、将来的に

また、望遠鏡は、将来的に

健康事業評価・検討協議会(仮称) 設置理由は

委員 健康事業評価・検討協議会(仮称)に関する経費が、平成18年度予算に新規計上されている。そこで、同協議会の設置理由と委員構成等について聞きたい。

健康推進課長 近年、子育て支援や介護予防事業等で、様々な連携を必要とする保健サービスが増えるとともに、20年には老人保健法の全面改正が予定されることなどの理由により、同協議会を設置するものである。

また、学識経験者や医療保健関係者、検診事業者など12名の委員で構成し、既存事業の評価や検診の実施方法などについて、協議いただく予定である。

給食担当主幹 保護者への周知については、全体での説明会を行い、該当者へは、個別に対応するなど、周知していきたい。

食物アレルギーの 個別対応給食周知方法は

委員 食物アレルギーを持つ児童・生徒への個別対応の給食については、給食の容器などが他と違うため、周囲への理解を広げる環境づくりが大切である。そこで、個別

対応への丁寧な周知が必要と考えるが、市の考えは。指導室長 学校では各職員が、個別にアレルギーの状況を把握し、情報を共有している。今後、児童・生徒への指導が必要と思うので、情報を得ながら、理解促進を図ってきたい。



▲運行を終了したペガサス

また、望遠鏡は、将来的に
は郷土の森博物館で活用できるように検討している。